

## 「未来を育む ひとが輝く 信濃おおまち」を目指して

今、世界は、新型コロナという未知のウイルスによってもたらされた感染症の影響により、大きく深い閉塞感の中にあります。コロナ禍で、私たちは失われた時間を振り返り、あらためて「平穏な日常の大切さ」を思い起こしています。何としてもこの厳しい状況を克服し、コロナ後の「新しい日常」を取り戻し、更にバージョンアップした持続可能な地域社会を築いていくことが強く求められています。



さらに、人口減少・少子高齢化の進展のほか、DX（デジタル変革）への転換やSDGsへの取り組みなど、これまで想定しえなかった新たな課題に対しても、立ち向かわなければなりません。

このたび策定しました令和4年度から5年間の「第5次総合計画後期基本計画」は、「郷土や文化に誇りを持ち 心から地域を愛するひとを育てる」を基本理念として、市が抱える様々な課題に挑戦するため、5つの重点施策を位置づけました。

こうした時代の変換点にあって、大町市は、感染の拡大局面において、市民の理解と医療関係者の献身的な取り組みのもとで、医療崩壊を食い止め、市民と行政の「協働」の力を示してきました。大町市出身の奥原希望選手は、東京オリンピックにおいて、最後まであきらめない強い「意志と覚悟」を、また、コロナ禍で、開催さえ困難と思われた国際芸術祭においては、多くの関係者の熱い思いを支えに、知恵と工夫で克服できる「可能性」を見出しました。こうした「ひと」の存在は、まさに市の強みであり、未来に向けたまちづくりにおいても、それを担う「ひと」は極めて重要であるとの思いに立ち、市の将来像に掲げる「未来を育む ひとが輝く 信濃おおまち」の実現を目指していきます。

先行きが見通せない困難な時代にあつてこそ、大町市は、市民の皆様とともに、総合計画基本構想に掲げる目標の実現をめざし、後期5カ年計画に基づき、市民一人ひとりが活躍できる、ひとが輝く確かな暮らしに向けて、ひるまず、恐れず、たゆまずに歩みを進めてまいります。

計画の策定に当たり、ご協力いただきました市民の皆様はじめ、大町市総合計画審議会、大町市議会の皆様方に深くお礼申し上げますとともに、ご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

令和4年3月

大町市長 牛越 徹